

體源抄

十一

庫文閣内			
九	九		和
九	三	二	
函		三	書
六	四	七	
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 9227
冊數	34 ( 17 )
函號	199   133





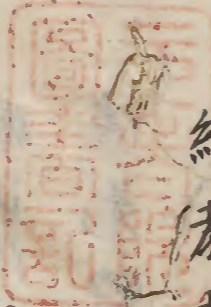
續教訓鈔卷第十一下

文永第七歲 庚午

唐樂舞師拍宿衿朝葛撰

物部

第一橫笛





第一横笛者

又名龍吟 又名龍鳴 又名龍笛 又名羌笛

又名鳳笛 秘 又名橫吹 笛 從歷久 音歇 又作遂 橫一長一高聲ノ也

夫横笛五聲八音ノ器四德二調ノ和ナリ狀流水似奇寶終南岵  
採躰飛鳴象トイヒ靈幹ノ街陽嶺伐昭掌管咸陽宮秘府獻  
良竹材柯亭館トイヒ糸椽ヨリ得タリ金谷春ノ日古し遲トイヒ石崇花下ノ曲  
感山陽秋ノ夜サレ冷トイヒ向子月前音ナリシカシナラス漢家張騫西國  
傳羌野トイヒトシテハルカナリ奉朝濱主東流習浪滂トイヒテカレ余降鳳笛  
ヒキ歳月追テ滋龍鳴関春秋ラカサテ興トイヒナリ誠是管絃ヲ調ル

夕明切ラ学トイヒ月笛和樂ヲカサレハ五音トノス笛礼笈ヲ奏セサレハ万曲カナ

ス笛ヲ侍テ仁義ノ礼式ヲアラハス笛付テ宮高ノ妙遊ヲナス仍管絃ノ中ニハ  
笛ヲモテ眼トス 文選注云ク大丘大夏ノ西崑崙ノ陰ニテ解谷ノ竹ヲ取テ

雄雌ニテ笈ラモテ 律呂ノツクル合テ十二合ラ定置テヨリコノカメ 文選注引鄴中記云  
馬舛字季長 扶凡人也 石京名也 曉大堤ノ上ヲ行龍水中鳴一笈ノ後天ニ登其音甚

以奇妙ナリ仍猶堤ノホトリ居ストイエトモ其笈ヲキカス後木ヲ巧テコレヲ吹ニス  
又竹ヲ鑄コレヲ吹其聲アヒニタリ 横笛是ヨリ始ニル鄴中記モ見タリ

風俗通ニ云ク笛ハ漢武帝ノ時工人丘仲カ造トコロナリ本羌中イテタリ  
笛濂ナリ邪穢ヲ濂スミコレヲ雅正納ルユナリ長一尺四寸七孔アリ 笛ノ音

一定 諸ノ短歌皆從笛為スト  
注云ク又葉宋玉笛賦ノ玉在漢前恐ハ世説邪之長一尺四寸或

一尺二寸切目口五分七ノ孔アリ大者亦也



或書ニ云ク馬融ト云人海邊龍ノ鳴ヲ用テ其方竹ヲ割テ吹ハシメタルナリトイリ  
復羌笛アリ馬融賦ニ見タリ

笛ニ云ク黄帝伶倫フシテ解谷竹ヲキラシテ作之ヲ崑崙山ノ谷ナリ  
律書樂笛云ク横笛音歌 和名与古布江本羌中ヨリセタリ西国ノ名ニ漢張騫

西域ニ使トシテ首 一曲ヲ習ヒ傳エシム李延年造新多廿八曲ヲ或張騫  
新樂ノ乱多ノ始吹ト云 或云張騫天竺ニ渡ス摩訶瑰佛ノ一曲ヲ傳之

史記云ク笛ハ滌テアリ 滌然テヘセンナリ 黄帝伶倫フシテ竹ヲ崑崙フムケイ路切テ斬キリテ  
笛ヲ作テ吹之ノ作鳳鳴ヲト云シ

初學記云ク笛一定諸弦歌等皆從笛起即今漢振以笛為先ト若胡  
部以笙為先ト長一尺四寸七孔之七孔表七曜五孔表五行三孔象三才

一切諸樂盡從笛之智ニ不遂諸多ノ樂之正智ニ云ク  
或書云ク唐ニ嵇康ト云人斷湖ヲスルトキ龍ノ水中ヨリヒラヒテ吟スヲ聞ク目

初ダサリケルヲイカニスヘキヤウモナクテスクルニ崑崙ノフモトニアル竹ヲ出スクツレテ  
此ヲアルカカセニフカレテヤウクニナルカ 龍吟スルニタリトキ此竹ヲ切テ吹ニ滌ニ

目モシ世ヨリ笛ハヲフリコレハ龍吟トハイウナリ  
釋文ニ云ク慈恩シランノ云ク七孔フエ筩ナリ

順操ニ云ク羌笛三孔又晋協律中郎列和善笛ヲ吹之七孔笛也又吹フエ及出吹ナリ  
月令ニ云ク樂正命シテ笛ヲ習是ナリ 笛亦作遂横一長一高麗ノ等也

或云昔龍ノ鳴テ海ニ入ニシテ 又世音ヲキカハヤト意ワシホトニ竹ヲ折切テ吹ハス  
音スコレモタカハスニタリケリ始ハ此ニエリタリキ後ニ七トス此故ニ笛ヲ龍鳴ト

イウトイ一リ 釋名ニ曰ク笛ハ滌々然ナリ

史記曰ク黄帝使伶倫伐竹於昆谿斬而作笛ヲ吹之ニ作鳳鳴ヲ  
樂書曰ク笛者滌也丘仲所作ル可以滌蕩邪氣出揚正声是故列和善吹

截ニ之音應律荀日助據同依三尺二調成均剪雲夢之霜筠ヲ法ニ



龍吟之吳韻三孔為籥文舞執之邠人吹之五孔為逐絃臯用周師掌之  
六孔為笛羌人吹之七孔下調漢邦用之今之七星管古之長笛之一定  
為調合鐘磬之均各有短長應律呂之度樂邦內咸用之也

文亦傳ニタリ蔡邕告其人曰昔常經會晉高逸亭見屋椽竹東  
同分十六可為笛取用梁有吳琴

西京雜記曰高祖劫入咸陽宮周行府庫金玉鈐寶不可稱計其尤驚異者  
玉笛長二尺三寸六孔アリ銘曰昭花之笛或云長二尺二寸九孔アリ

樂實錄曰太和十手中書監荀勗中書令張華於所府銅竹律二十五具命  
太樂郎劉秀等共三吳興社夢及允延年法律同共二十二具視其銘類尺寸  
是笛律也同協律中郎持列和辭音魏明帝時令和兼受笛聲以律

更字者別居一坊款詠講習依比律調但識其尺寸之名則竹絃款詠皆得  
均合款聲濁者用長笛長律款聲清者用短笛律九絃款調張清濁之製依

又曰橫鐘笛晉時三尺八寸允嘉九年大樂令鍾宗之減為三尺七寸四分

治書令史奚縱又減五分為三尺六寸五分劉和之東箱長笛四尺二寸

又曰蕤賓箱笛晉時二尺九寸宗之減二尺六寸縱又減二分為二尺五寸分

又曰姑洗箱笛晉時三尺五寸宗之減為二尺九寸七分縱又減五分為二尺九寸分

又曰橫笛小荒也漢靈帝好胡笛有胡笛荒出胡吹即此也梁朝款多  
扶馬不須鞭柳折柳枝下馬吹橫笛愁殺路傍兒此款辭允公比國知橫笛

是世固名今橫笛皆者義甯具有甯者謂之義甯笛

國史補曰季丹好事嘗得村舍煙竹截以為笛堅如鐵石以遺季年季  
吹笛天下才一月夜泛江與舟吹之寮亮逸發絃有客立於岸呼似諸載既

至請笛而吹甚為精壯岩可裂年平生未嘗見及入破呼吸盤碎應拍

粉碎客散不知之舟著誤疑其蛟龍也伏滔長笛賦序多蔡邕作也

後漢書云蔡邕字伯喈柯亭觀以竹為椽邕取之為笛



文選馬季長カ長笛賦云々笛生乎大漢有廢士丘仲ト云言其所由出而不知其於妙ヲ

又云近世雙笛ハ從羌起レリ羌人伐竹ヲ未及レ龍鳴水中ニ不見レ已ラ截竹ヲ吹之ハ聲相似タリ刻其上孔カスレ通洞トカス之裁ヲ以當レ笛ハ易京若明識音律故未四孔以一若月所加孔ハ後出タリ是謂高竽五音乎

晉樂志云橫笛百詠ニ云ク羌笛ハ龍ノ竽ヲ寫セリ長吟夜入テ清南山孤月下モト向瀧頭

鳴吹カヒ遂ヲ梅花落春ヲ含テ柳色驚行テ向子カ賦ヲ觀テ坐チカラ舊人ノ情憶ヲ

或云笛ヲ龍吟ト云宮商角徵羽ノ五音ニナ龍笛ノ調ニワキヲタリサレハ

樵夫牧童ノクサカリフエニイタルニテリ理世セ安樂ノコエヲサメタリ

或云笛ニ洛梅ノ曲アリトイヘリ又折楊柳ノ曲アリ

或云橫笛世元ニライテ不同アリ皆取表アリ所謂ニ三孔五孔七孔笛也

筥廣雅云ク七孔之余雅云僧産注如笛三孔而短玉篇云五孔鏡水抄云七孔篇云名笛也氏陵七十二仙傳云馬融夢一枝花錦繡ナルヲシ夢

中ニ世花ヲツシテ食トミル子フリサテ天下ノ文章サトラスト云事ナシ時人号テ

備臺ト云フカル人ニテ笛ヲツクリイタセルニコソ柞管弦器何モトリクニステカタクヲホヒ侍リ管ハ吹テ音竽ヲイタシ弦ハ

引テ曲調ヲナスシカレハ具勝劣サラニサタメカタシトイエトモ笛大樂柞士リレ曲乱テレハ余樂直ニカタシ仍舞曲對シ弦類ニ付テモ橫笛ヲモテ

樂ノ父トシ大鼓ヲモテ樂ノ母トスルモノナリ箏比巴ノタクレハ弦ニツツフレイテキタリテニハカニ失礼ヲナスチカキホトトラキトコロ自躰ノ所持アタワ子ハ其ツラヒアルヘシ笙篳篥ハ古ノヨキアシキニヨリテ其音トノホラス笙ノ簧ハラレヤスシ又アシクモハ竹アヤウシ簧ノ舌ハワレ



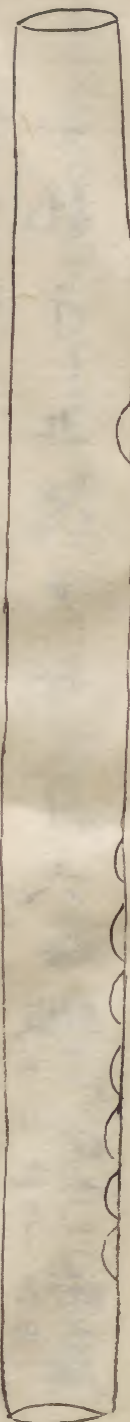
ヤズ又紙ヲナキトルワツラ<sup>ロ</sup>ニ横笛ニイタリテハ腰ノサシ懷ニラサメ馬上步行  
吹ナラスニワツラ<sup>ロ</sup>ナシ又手ニヒサケテ持テシサレハ馬季張カ長笛賦ニハ  
鞭トスルニタヨリアリトエツ侍ルメシ其音或ハ龍鳴ヲウツシ或ハ鳳<sup>鳴</sup>ヲ  
カタトルユニヒ音ヲイタセハ天長地久理世女樂ナルヘシカクソフトク柏家ノ  
笛ヲロニアテ<sup>信</sup>オトニ心ノヒタカタテカヤウニヲ<sup>ノ</sup>一<sup>信</sup>ル人ナシクヲフセイヲカ  
シクヲホ<sup>一</sup>信リ或先買口傳ニ云クアタラシキ笛ヲフ<sup>ロ</sup>ロ<sup>ニ</sup>ニハ必ス雙調ヲ  
フクヘキナリ<sup>ハ</sup>調甲乙音一向キユ<sup>ナ</sup>ナリ

尾張濱主作  
五重之記曰鑿龍<sup>雅</sup>三興復之聲<sup>靡</sup>慟鄭<sup>邪</sup>表<sup>徽</sup>之聲  
文鄭音如金有丸石<sup>雅</sup>聲者正直之聲也  
雅奪鄭允貴不可有<sup>鄭</sup>音者狂言之音也  
平調品玄<sup>如</sup>班録行用引也  
臨調<sup>如</sup>秋風<sup>盛</sup>秋上葉

盤涉調品玄<sup>如</sup>楊柳<sup>拉</sup>靡春<sup>凡</sup>  
黃鐘調品玄<sup>如</sup>隔春<sup>霞</sup>聞<sup>鴛</sup>夢  
壹越調品玄<sup>如</sup>山河<sup>落</sup>漲<sup>岩</sup>間  
上調子<sup>入</sup>息高吹也<sup>如</sup>障子<sup>抄</sup>懸<sup>精</sup>砂  
雙調品玄<sup>如</sup>鐵樹<sup>開</sup>金<sup>銀</sup>花  
大食調品玄<sup>如</sup>萩原<sup>石</sup>洞<sup>露</sup>松  
女摩<sup>如</sup>コカラ<sup>レ</sup>シ<sup>ノ</sup>和<sup>ム</sup>ラ<sup>ク</sup>フクニ<sup>散</sup>紅<sup>系</sup>秋也  
竹<sup>穴</sup>名  
入調<sup>如</sup>冬夜<sup>聞</sup>鶯<sup>諸</sup>鶯  
入調<sup>如</sup>夏山<sup>蟬</sup>聞<sup>木</sup>高  
入調<sup>是</sup>連吹品玄調子也<sup>通</sup>例也  
入調<sup>如</sup>朝立<sup>空</sup>聞<sup>鷄</sup>鳴  
上調子<sup>如</sup>俄<sup>釋</sup>震<sup>隨</sup>鳴<sup>出</sup>

于五上夕<sup>中</sup>六丁口<sup>四</sup>寂下<sup>少</sup>穴名<sup>之</sup>古註  
一説于五上夕<sup>中</sup>丁六口<sup>寂</sup>下<sup>少</sup>穴名<sup>之</sup>也  
是秘説也三説也





同名物

大水龍フホスイレウ 小水龍コスイレウ 青竹アヲメケ 葉二ハフメツス号 柯亭カテイ 讚岐サヌキ

中管ナククハン 針打クチウチ 庭ニハ 錫タイ 或庭タイ 筠サシ 青葉アヲハ 或葉アヲハ 二ニ 穴アナ 貴キ 或或

頭カシラ 燒ヤケ 海人アヒノ 燒ヤケ 不足キナシ 或稱或 頭カシラ 燒ヤケ 音安ヲヤス 内宴ナイエン 蛇ニヤ 逃ニカシ 地ス号 丸丸

助シ 支タナ 丸丸 重代タナ 丸丸 小螺テ 蚌サ 見江見 濱濱

或書或 ムクムク 笛フエ ハ代ハ代 国国 王王 モ吹モ吹 マラマラ ハハ セトセト モ高モ高 名名 ノノ 笛フエ 共共 ラハラハ 常常 ニモニモ 不不 吹吹 所所 小小 柯亭柯亭 讚岐讚岐 中管中管 釘打釘打 庭庭 筠筠 青竹青竹 葉二葉二 蜂丸蜂丸

大水龍大水龍 小小 柯亭柯亭 讚岐讚岐 中管中管 釘打釘打 庭庭 筠筠 青竹青竹 葉二葉二 蜂丸蜂丸

横笛秘曲者

皇帝團乱旋師子荒序皆壹越調アリ是ヲ笛ノ四曲トイフ

一貞保親王横笛譜序云

夫弦哥ノシラテ 笛フエ ニアラサレハトノホラス蓋テ ムム 濤テ 瀉ハ 邪シヤ ヲヲ 蕩タウ シテシテ ココ ヲヲ 雅カ 正セイ

イルナリ故コト ニ丘キウ 仲ウケ 材ケウ ノ七ナナ 孔アナ ノ器キ ニアラハシテ始ハジ ヲヲ 制セイ 季キ 長チウ 妙メウ ヲヲ 五ゴ 音オン ノ

哥カ ニツクシテ受ウケ 傳ツタ ヘタリ其コノ ヲヲ 以ヨシ 来キ 其流コノ イイ ヲヲ 口コ ロクシテ遠トウ ヲヲ 漢朝カンチウ ヲヲ リ

近チカ ヲヲ 日城ニチシロ ニイタシサ代玉管ダイゴウ ニモテアツヒ人龍ニンリウ 鳴ナ ヲヲ ナナ ヲヲ 激キキ 朗リウ ノノ ヒヒ キ

時代キョウダイ ニシタカヒテヤウヤクタヤウヤクタ シ爛漫ランマン コエ曲度ケツド ヲヲ ラテシケリコル方コルカタ 今イマ 師法シホフ

ステニトヲクシテステニト ヲヲ 示シ 矣イ 論ロン ヲヲ 執シツ 樂府ラクフ 知音チイン スクナキ輩ハイ 伶官レイカン 矯キョウ 壯チウ ナキ人

聖上セイジョウ 心シン 聲セイ ノ將シヤウ ニ變ヘン セムコトヲ惜シヨク テテ 謬ミウ 曲キョク ノ乱ラン 聽テイ ヲヲ 悠ユウ レムレム 已イ 下ゲ 文畧ブンリョク 之ノ

又マタ 笛フエ 孔アナ ハ七ナナ ナリナリ アア 孔アナ ニニ ノノ 音オン アルアル ヘヘ シシ 太タイ キキ 音オン 中チュウ ノノ 音オン 細サイ 音オン ナリナリ 又マタ 甲ケウ 中チュウ 乙イチ ノ

音オン 也ヤ シカレハ七ナナ ノノ 穴アナ ヲヲ ヲヲ 音オン ヲヲ イイ タタ スス ナリナリ



又七ノ穴ノ内ニ五音アリテ一穴ハ商ノ音ニ穴ハ角ノ音ニ穴ハ徵音中穴羽音  
六ノ穴ハ宮ノ音ナリテヨリ上ノチサキ穴ハ次トナツク是別ノ音ハアラス  
テノ塩魯トスルナリ其音六穴ニ同ナリ宮商角徵羽ノ中ニワ、テ呂  
律ノ音アルニテ子ノ穴ニ呂律ノ音アリ律ヲハ平調トイヒ呂ヲハ大食調ト名ク  
上ノ穴ニ呂ノ音アリ即雙調ト名ク夕ノ穴ニ呂律ノ音アリ律ヲハ黃鐘調トイヒ  
呂ヲハ水調トスルナリ中ノ穴ニ律ヲ音アリ盤涉調ト名ク其呂ノ音イマタ  
ツタヘス六ノ穴ニ呂ノ音アリ壹越調ト名ク律ノ音イマタツタヘス上五音ノ  
呂律カクコトシ此外ニ五穴ヲ下無調ト名ク別ノ名ナレ即是ヲ角調ト名ク  
丁ノ音ヲ上無調ト名クコレ諸ノ音ノ塩梅ナリ別ノ名ナレ即是ヲ林鐘調ト名ク  
角調ニハ下ヲモテ甲トシ林鐘ニハ上ヲモテ甲トスルナリ

悉曇藏茅ニニク伶倫鳳凰ノ琴ヲ聞 笛ヲツル是則漸谷ノ竹ヲ取テ  
コレハコムロムノツツ 鳳凰鳴笛ヲツルナリ一ノ孔アリニテ穴ハコレヲ傳ヘス其九ノ穴ハモテ  
谷ノ名ナリ

五音トス竹ノ節ヲ尾トス竹ノスエヲ首トス本管ノ穴コレヲヨモテロトス竹ノ腹ノ上ニ  
一二三四五六七ノ穴アリコレヲヨモテ次テ五上夕中六トスルナリ六口ニテ穴ヲ  
宮トスコレニ二條アリイハユル一越調羌阨調ナリ出ナリ呂ナリ口六ニテ穴ハ  
コレ一音ナリ大ハニ合テ一タホトスルナリ次ノ穴ハ別ノ名アラヌ名テ每調トス是諸  
音ノ塩梅ノ故ナリ但シ次ノ穴ヲモテ每調トス事イマタ習傳ヘス以前ノ説ザラ  
井ナリヨククツツ又ヘシテノ孔ヲ商トス即是秋ノ音ナリ此ニ三条アリイハユル  
平調 律乞食調 呂大食調 呂金音ナリ五ノ孔又別名ニアラス塩ノ義ナリ  
次ノ穴ニ同レキ故ナリ上ノ孔ヲ角トス即是春ノ音コレヲヨモテ 霜条トス呂  
其律ノ音未コレヲツタヘス木ノ音ナリ夕ノ孔ヲ徵トス即是夏ノ音ナリ  
コレニ三条アリイハユル 黃鐘調 律 岳調 呂ナリ火ノ音ナリ中ノ孔ヲ羽トス  
即是冬ノ音盤涉調ト名ク律其呂ノ音未タコレヲツタヘス水ノ音也中六ニツ合テ  
丁ノ名ルナリ竹節ノ下孔ノスヘニコレヲツケルナリトイヘリ



畷ニ云ク下穴ハ上タリ 楽テハ又 又五中ヲ楽テハ又  
又管穴ヲモテ口トスル秘説ナリ

又云腋ニ七穴アリ口穴ヲ如レハハナルナリ中ニ下ノ音アリ 仍九竅ナリ 即ハ  
葉九尊人 又云テノ孔ノ上ノ穴ヲ之ノ穴トイフ又ハ梅穴トイフ或ハ角イウ

又云笛ノ穴下方ヨリカマテ上方ニイタル但六タ一度ニ楽吹テ 下ノ穴トスル也  
皆フサキテ吹テ口六トナツクルナリ下穴ヲハ之ノ穴ト名クルナリトイヘリ

又云未ノ切目ヲ口音ト云事ハカクスヘキ事也五中ノ穴ヲラヒテ皆フサキテ  
吹音ナリ又古竇ニ六穴ヲスカレテ吹ナリ

又云笛ヲ紙ニク事アリ九ニ下クナリ切目ヲ首トスルユヘナリ  
又云テ中 平調 甲乙 中五 盤涉調 甲乙 五丁 下無調 甲乙 丁上 上無調 甲乙 上六 雙調 甲乙 六夕 一越調 甲乙

夕ハ丁 黃鐘調 甲乙 次弄カクノコト也  
又云テ平調五下無調上雙調夕黃鐘調中盤步調丁上元調 壹裁調ナリ

又云角調上元調 下相甲 上為乙 林鐘下元調 上相甲 下為乙

同憲記ニ云ク角調下元調 林鐘上元調 次ト云以前ノ説ニ相違次  
又云五穴名角調 下無下穴名林鐘調 上无

九大臣并浄名院説ト云ク

又説五宜名林鐘調 下元名角調  
又云黃鐘調ノ心ハ丁孔ヲ細ク吹大食調ノ心ハ上孔ヲ細ク吹口傳也

名物等物語

水龍ハ昔シ唐人賈人交易合カレテ渡海間海中ニ舩笛ソテ 進退スル  
事アタハス賈人ホ悲歎シテ海神ニ祈ソイハク若世笛ヲ用ムカトテ  
海水ニサシ入ル、アカクイカメシキロヲイタシテ吞テ入テ 其後舩浮テ  
難ナク浮ニツキテ 後ノ年金千五ヲ貯テ改唐ノ間其笛入シ程ニ海  
神ニ祈テ云ク 神若世金ヲ用ニトヲモハ、彼笛ヲモスヘシ調ニ應ニテ 笛浮ハタリ



仍金ヲ海中ニ入前ノ如クノ亦口現レテ千両ノ金ヲ吞テ入ト多ク唐人世笛ヲカヘ  
シエテ我朝ニツク其時ノ大子金二千両ヲ給テ之ヲ多ク今ハ平等院ノ  
御經藏ニアリト多ク或記云ク天曆ノ御門ノ四笛ナリト云ク

又云い笛ハ管大ニ音豊ナリ裛管ニ紹タレ故ニ大字ヲ加フ笛水中ノ龍吟ヲ  
寫ニ故ニ水龍ト稱ス帝甚々秘之輒不用宴云

知足院啟行ラレケルハ冷泉院不例ノ心地ノ比少カシテ奇ノ穴ノ間ヲケワリテ  
ステサセ給タリケルヲ御室ノ奉々セサセ給テ其穴ノ間ニハコト行ツフセウシタル

トツ其後後冷泉院ニト行ノ笛人ノ盗ミタリケルハ世間ニサワキテ御修法ナト  
行ハレケルシニヤ御河水ヲ打テ置タリケルヲウトサシカラセ給ケルハ宇治

政申給テセ給テ御經藏ヲカセ給ケルナリ

又云大水龍ハ水龍共ニ天曆ノ御時ノ寶物也

又云小水龍ハ笛ニ粗大水龍ニシテ其音を絶妙ナリ上帝ニ祝ス

不止遊之序無不奉之今世傳テ極帝ニアリ世笛新院ノ御宗

藏人次穴ノ上候ヲ打ラレ然間大納言奉通奉之河修理アリ元久三年

二月五日ハ幡住侶河内梨覺遣ニ召作テ首ヲツキ裝束ヲセラレ其笛ニ打

晋通ノ笛ニ三分アコリ延タリ音モ事ノ外世比ノ笛ヨリ太アリキハ笛三曲ヲ

キツメサラム物ハフタハカウサルヨシ大納言彼作ラルハ間細エラロハ笛ヲ心中

イハトモコレヲソカス宝賞式貫吹之細工源頭立示給之云ク

或云ク平等院ノ寶藏ハ水龍ト云笛唐土ノ笛ナリ唐人ハ朝ニ渡ルトキ

海中ニ云舩ニツナムトス舩人ホコルヨアマシム種ノ財寶ヲ海ニ入シ皆以シツス

仍仔留ヲ海ニヘトキ即沉一益為ニキレニツキテ後本主沙金千兩ノ儲テ

龍王ニ相傳スト誓テ金ヲ海ニ入トスルトキ仔笛忽ニ浮カ仍金ニカヘテトル

トコナリ宇治殿世事ヲ聞食テ仔笛ヲカヒトラセ給テ寶藏ニメシメ給ケル  
又云小水龍或記ニ云ク天下亦亦笛ナリ天曆ノ御笛ナリ而テ二条院ノ



淨時清原助種助貞ホラガテハ笛ヲナマタノ笛ノナカニセテシセサセ給テ  
一二三ヲツケテミヒラスヘキヨシ作下ナルニ小水籠ノ不中用ノヨシ申ダリ  
ケリ牙一ノ瑛瑾ナリ

葉ニ禪定殿下ノ作云朱雀門鬼ノ笛也昔シ月アカキ夜博雅直衣ヲ  
着テ朱雀門邊遊テ終夜笛吹同ノ直衣着ル人又来テ笛ヲ吹其

音已ニ絶倫ノ佐ノ思テコレ見ニ未ノ曾テシサル人也夜ニ會合シテ

笛ヲ吹アシノ彼吹トコソ笛殊ニモテ目ハク開ヘケル博雅彌早世ハ後

取替テコレ吹ニ人間ニ此類ナシ其後月ノ夜コトニ會合シテ吹ケレトモ本ノ

笛ヲカヘセトモイハスヨテカヒシアタヘスシテ心ニケル博雅彌早世ハ後

天元三九年八月廿二 聖主ハ笛ヲ召テ當時ノ笛吹ホニ吹セラルニ敢テナラス時ニ

淨蔵ヲ召テコレ吹セラルニ博雅ニヲトラス主上作ラレテ云クハ笛ノ主誰人

トラス遺恨ノ事ナリ博雅ハ朱雀門邊ニシテコレヲ得トイヘリ淨蔵カ

鳥ニシテコレ吹ヘシ今生定テハ現セカ淨蔵倫言ヨテ月ノ夜件ノ所ニ

行向テコレ吹朱雀門樓ノ上ニテ高夢ニ感シテ云ク日本外ノ笛ノ

音カナトイヘリコレニヨリテ初テ鬼ノ笛タル事ヲシルトイヘリ其後傳リテ

淨蔵入道殿淨物タリ 宇治彼平等院ヲ建立後淨蔵ヲリ

ノラレケルナリハ笛ニハ葉ニアリホ葉一トキ晨トキ露ヲ芋トイヘリ京極殿

大振及板寛ノトキホ葉一ハ落トノ作ラレケル全ノ露モヲカストイヘリ

但ハ記頗ル不審ニ博雅ハ淨蔵ヨリノチノ人ナリ生年トイヒ死法

イヒコトノホカノ相違ナリ

淨蔵ハ寛平三年 辛丑 生ル康保元年十月廿二日入滅 年七十四

博雅ハ延喜十九年 巳卯 生ル天元三年九月廿八日薨 年六十二

大外記師遠諾ヲ云ク 師仕孫 師平子 昔彼上人月夜一廻ト云 步行テ陽明  
門ヨリイテ、朱雀門ヨリ入リ人三十内裏ヘ参リテ後業平申す



一人以門トナリテ月ニ感シテ笛ヲ吹テ入ケリ樓上ノ鬼大ニ感シテ世笛ヲ給トイヘリ

業平ハ天長二年乙巳生ル元慶四年五月廿八日卒年五十六  
以人ノエタル笛ヲ後ニ浄蔵ノ吹、タラム八年紀着合セリ博雅コト  
ホカノ相違也

此業平ハ平城天皇ノ孫彈正尹四品阿保親王ノ弟五男母伊豆内親王  
桓武天皇弟七女皇子内親王号桂親王ト是也

兼和十四年二月補蔵人頭年廿三右近将監嘉祥三年二月叙位位下年廿九

貞觀四年二月七日叙従五位上年廿八同五年二月十日元兵衛権佐年廿九

同六年三月廿八日遷任右近権女将年四十同七年三月九日遷任右馬頭年四十一

同十五年三月七日叙従四位下年四十九元慶元年二月遷任右近中将年五十三

同十月廿一日叙従四位上同六年三月十一日兼相模権守年五十四同三年

十月補蔵人頭年五十五同四年三月十日兼任美濃守年五十六同五月廿八日兼

姓在原朝臣ト賜ユニ在左中将ト申ナリ弟五男名ユニ五郎中将トモ申

左中将ヲ愛滯ノ化身ト云事ハ愛滯ハ大色イシヤウ同躰セ愛滯ニ種シ

愛滯セシラス其中ニ持彼ノ愛滯ヲ勝タル愛滯ト云シ持彼アニタアリ

則男持彼愛滯女持彼愛滯トニアリ世ニテ合テ兩頭愛滯ト云ヘリ

中将ハ以テ三ノ愛滯ノ中ニハ兩頭愛滯ノ化身ナリ五障女人ヲ利益セムカタメ

以生死ニ未五濁ニ生リ受ルニヨリテ化身身ヲシラス今家山法ニ入テ愛滯ノ

法成就シテ我生ラミルニモトテウクワ大日兩頭愛滯ト云ハ男女和合セル

躰ナリ何ニ中将ハ男ハカリニシテハ未レソク大日如未胎蔵界

金剛界トテニアリ是ヲ合ム一躰トハ紹過大日ト云イフ男ケウクワイ

トキ父ノ媼則金剛界ノ大日母姓ハ則是胎蔵界ノ大日ナリ世兩界  
和合スルモ男ニアリ女モアリ其義同シ是又女人ヲ化度セムタメニ男トシテ



夫レナリサレハ男トシテハ女ヲ利益シ女トシテハ男ヲ利益スルヨリ故ニ男持役女  
持役トスニハ弊ハアルナリ別ニ佛ヲ云ニアラス我身ヲ則佛トセト真言ニハ  
習フナリ男女ケウクワイノ時ヲ經過大日ト云ナリサレハ中将ハ我利益セム  
モノヲカムカヘテ三千七百人未雀門ノ髓髓ニハウラカキカレタリシヲ  
ウタカウ事アルハカラストイヘリ

祿中将ヲ愛滌ノ化身トハ伊勢物語ニテ、何レテ心ウヘキソ答ムク伊勢  
物語ニテ、セハシノ奇ニテシレリ其故ハ愛滌法ヲ行フニ彼各世各ヨリ峯ヨシニ  
ハイアイテアル友ノクスカツフトアフケトヨリアヒテコケアヒタルヲトリテ同ヲ  
被テ作ラ行フナリ成就シヌハ持役愛滌ト云カエニコト心ヲカケテアヒラ  
モフナリ中将法成就シテハ則我身ハ愛滌經過大日トシケリ五頭ノ  
愛滌ト云ハ名アラワレタリ其名ト云ハ仁和中将ナリ仁和トイウハヒトヲマ  
和ラクトカケリ和トハ心ヲ同シタスル義ナリ人フメリトハ男女和合ヲイウナリ

サレハ両頭愛滌トイヘリサレハ我身ハ則經過大日五頭ノ化身トシテ五障ノ  
女人ヲ利益セシテ表ヒテ道ニカル色ヲ好ム物トコソ思フラメトモ我ヤウニ  
生ラサトリタル物ニアラハ事ヲイヒ合テ我ハ好色ノルマヒハ化度ノタメ  
ソトイハムト思フイヒシラサ子ハカク思事イハテヌニヤシヌキトハ云ナリ  
中将ハ世事ヲ一ヲノムカタメニハ伊勢物語ヲカケリトミヘタリヨノ人ハ好色  
ノフルニシラ行ニテノ事ヲ奉トカケリコレヲカクサムカタメナリ世物カヌリ  
次ガナカタテゴトモソラコトモイリテカヘリ業平ノ性生ノ所ヲホヤ丁ト  
平城京ニ河堂ヲ名ラハ高橋堂ト云ヘリ世ニテ性生ヲ或云本地尺迦化身  
ナリ物ノタトヘリトリテ思ヘシ天迦佛ノ御弟子ニキコムタウイクトテ  
二人ヲハシケリ世キコム芥ハシトトリヲモキテハスメリケルヲバメウイク  
イカハサヤウニハサハシゴスソトアリケレトモ世文ヲトナヘテサテ性生アツケリ

・ 透郎宮 誥菩提 本無空 元是菩提



コレヲミルテ業平ハ得宗ノ人ナリ経ニ媯欲即是道目早  
亦復然トイヘリ

或記ニ云ク昔浄蔵貴所笛ヲ吹テ深更ニ朱雀門ヲワタル鬼大勢  
ヲモテコレヲ感シテ件ノ笛浄蔵 給トイヘリ

或記ニ云ク浄蔵ト云人月ノ夜笛ヲ吹テ朱雀門ヲスル時ニ鬼アリテ扣之ニ  
浄蔵吹止鬼モ又吹止カクコトクスル事毎ニノテ止人云ク是何人ソ  
子カハツハ謁スル事ヲエ 鬼應シテイハツ大徳ノ妙曲ニ感シテ一管ヲ復ス  
形骸ヲアヲハサハ定テ怖畏シ給ム歎トイフ上人サテク其儀アルヘカラサルヨシ  
シメシ給フアヒタ鬼ツイニハケリコレヲミレハ暴虎成猛ノ勢心魂キユ又ヘシ  
然而上人カツテ忍ル色ヲシ月能回四道皓然五笛窈高文吹之ヲ  
鬼ノ笛代 絶タリ凡竹ノヲヨハサルトコロナリ夜ヤウク微明ニ向テ鬼笛ヲ  
トテ急キ云ス絶ニ追トモモス 翌夜又件ノ笛ヲ吹テ彼門ヲスルル鬼

感シテ云クナラキヤツハチカラヲヨハスモノ、音カナト云ク

此浄蔵ハ三善清行ノ宰相男ナリ横笛、上テ尾張濱主カ分子ナリ  
空ニ物ノ音ヲレリケリ村上ノ御宇河導師ニセラレケルニ礼盤ニノホラムト  
スルトキヨコノ四導師平調ニツカアツト 宣下セラレタリケルハハハカラヒ  
テ三礼ヲシテケリケル音ヲニスノウチニ平調ニシラヘラレケル 箏ヲ  
ツカマ給タリケニ御宇ヲサシ入テカキナラサセヲハシフレタリケルニスコシモツカハ  
サリケレハコレハアリカタキ事ナリト申ツタヘタル

又朱雀門鬼トイウ事ハ一定アル事ナリ 他納言 長谷雄ノ内ニアリケルト主  
男一人云様養女一人アルヲスコロシオハヤト思フニ 歌ノナクテユカコト云ヲ  
聞テ他納言ノ云ク我打ムト云ニ男ノ云ク版負給クテハ何ヲカ給(キト云ニ我比ニ  
係ノ手籍共ニアリ惣テ所有ノ財産ヲフテツクスヘト云 但閑野ニテコソハ  
オヒ何ニトカオ(キト云 男云ク朱雀門トト云ニ 他納言怪異ト云ヤツカナド



思テ登レサス見ト云ニモトウヘスレテヤスクノホト又七時ニ只物ニアラストニリナカラ  
サアラツカラニハト思テ我ハウホルレシキ我ヲ負テノホトアリケル世男調度ハ  
脚ニハサシテアキ負テノホリタルニ紀納言ノ云ク汝ハ只者ニアラス鬼外ナリ  
男ノ云クサ内ツト云ニ紀納言ノ云ク鬼外ハ虚言セス物名タカラ(カラス貫ル)  
毒語ス(カラスト云ニ鬼云クサウフサニニイラセユニ取申ツルト云テ打テ  
養カハ入ス通ラ忌テ本身ニナリケリ頭ハ夜丑ノ加シ目ハカナニリゴトシ  
牙ハ釘ノフトレ手ハ怨ノフトクソアリケルニ紀納言敷テ憶セスオフトコレ教十六  
許勝ニケルサテ鬼外物名ノトク其日過テハ端嚴養麗ナルサヲ十七八歳  
許アリケルヲ負テ夜ル将死テ云ヤウ空貴ニ百日ヲスキテニ紀納言(ヨト云テ  
返ス然ニ紀納言愛ニタスレテ百日ニモタテスレテ五十日ト云ニ紀ナリケルハ  
悉ク醉碎ニ云元物ニモアラスナリケリニ後紀納言道ヲ夜ル行ケルニ世鬼ノ  
アリテ惡ケナル大音ヲ云ウヤウハ口借ノモ申事ヲ聞給ハスレテ心ニクニ魚申シ

不信ノ人ナリケリ今ハ汝ヲ物トモラモワストイヒケルトキ紀納言心ニ畏テ菅  
並相ノ宮タスケ給一ト行念ニ給ケル空ニ菅兼相ノ御音ヲモチテサアラム  
カテハシヤツハナトセニソト作ラケルハ矣昔ヲ聞テ鬼失ケルニ後小ヤノ社  
参テ既申ニ作テ奉リタリシ詩曰 庭増氣色暗砂緑ナリ 林雲  
客程宿雪紅ナリ 天孫草樹ニヨソ(我身)砂名ニタトテ彼歐光ニシテ  
我ハ照サルト云心ヲ籠タルナリ件ノ女ハ鬼死人ノ因共ニ切集テ必ツケルタリ  
ケルナリ百日タニモス一タラフニカハ実ノ女ニテアル(カリケルサテリヨリ庭  
ヲイタル人ハ百日ノ間揺ラ行セストハ至リ 切目ハ百日イエアラト云ナリ  
類聚国史ニ云ク大戸清上ハカシ京洛ニアソノ月夜 笛ヲ吹テ後院ノ  
町ノムラスカ鬼感シテ笛ヲフク清上フキヤハ鬼又フキヤムト云ク  
国史ト江淡ト其旨頗ルアヒ似タリ鬼丸ノ事恐クハスレカサル證據ナト  
江淡ニ云ノ葉ニハ向名ノ横笛ナリ朱雀川鬼笛ト号スルハ是ナリカメナリナ



大入道般ニアリ後一院四在位トキ威人ヲミテ付レ笛ヲメス威人ノ名トシテス  
只二進セシメ給ヘト申ニ入道般秀向ヲ作ルナリ何ホノ事ナリトモ  
論言ハソムクハカラス但二進ニソノエカリナシケル若クハ葉ニテ一笛ノ事次トテ  
進セシメ給トイヘリ

彈定放下ノ作ニ云ク葉ニハ竹葉那笛也物モアスヲロユルヲ傷ツヒ  
テ吹シカハ物ヲ音コソアヒタリシカ色ハ黄赤ナリ孔ハ菴ノサチノヤウナルヲ筋替  
サアニヲキタルヤウナリ今ハ破ラ透テ吹トモナラスト多ク

同作ニ云ク本朝ノ横笛葉ニヲモテ第一トス世笛他竹替其色赤也  
亦銅カケタル鞆ノコトナラストイヘリ第二ハ青竹葉ニハ柯亭第四大水龍

世笛冷泉院物タルワシタワラセ給間所ハカニテ其奇ヲケツラシメナシク  
タリケルヲ後ニ他ノ竹ヲモテ其証ニ伏ナリ誠ニメテタキモノ也外五ハ小水龍トリ

又云昔竹葉竹葉竹葉昔蟬碧鮮ニ葉アリ白露常ニ其上ニ疑ル故ニ

昔葉ト号スを聖物トスルニ足レリ

或ク葉ニ同管ナリ竊ニハ儀ヲ案スルニ其留ナニアラス蟬ニ昔葉アリ

葉ニ百露ヲ成テトニ鬼作ノ資産ニアラスハ寧ハ以テノ聖矣アラムヤ加ク

一管ノ名ニ葉云駿故昔葉ニ鬼笛皆ニ管ノ名次

又云昔竹ハ公宴事ニ用ラル知足院放ノ作ラシケルハ今ハ色ハ真黄ナリ

菩提樹院ニ後一条院ノ街敷ノカキタテアツメタリケルニ街傍ニ笛ハカセ

給タルカタヲカハナイラセタニナルハ昔竹カ放ナリ繪門園梨トイヒケルモノカキ  
タルトナシ

彈定放下ノ作ニ云ク百川院ノ作ラシハ何亭  
タリ玄上ハ比巴ノ王コッアスレト多ク昔竹葉ニモスクシ

同作ニ云ク柯亭ハ三条園白笛ニ四条大納云ク仕コレヲツタウ大二条放及通

彼大納云ムコナリ仍レ傳ハ給トイヘリ



世何亭 昔唐上蔡邑ト字伯皆云人在何亭館宿ス何亭ノタルキ作ニテ  
アリケルニ邑己ヲミテユシキ笛竹ナリトテ笛ヲワクルワノコト世々スレタリ  
今傳リテ 我朝アリ何亭ト稱スル 即テ世笛ナリ  
或云蔡邕昔會稽高遷亭ヲ經テ屋ヲ東ノ向ノ角十六ノ竹椽ニシテ  
ツツリツキ取テ吹ニ奏瑟アリ

或云何亭ハ唐土ノ野名ナリ准蔡邑ノ名笛吹キ鳥羽院西庭ハ何ノ  
笛ニモテサレル笛ナリト云ハ成通以該ナリ

或貴トハ或アハ宮世笛ヲ吹シノ給テアヒタ所衣ノ上ニ雪ノフリカ、リタルケルヲ  
亦拂セ給ケル所件ノ笛亦損年多、或云落テ折セ給タリケルトカキ  
或云小一条院ノ所笛ナリ 大炊門東洞院ノ所坐ストキ件笛矢畢七年  
尋エサセ給ハスカタク、行橋セラル、同明月夜世間ニカナルニ南面ニテ  
辰巳方ニ側ニ笛ノ音ノスルヲ即折シシヤ世笛ノ音ニ付テ若尋得タラハ

吹人カラ召具ヲ悉カヘキヨシ作セシテ 東洞院タリ馬ヲヤメテユクニ笛ヲ  
吹トキニ馬ヲ引ツ 立日ニウイテユクニ五条フテ 行テ聞ニ五条ニテハ東ニ  
ケレハ河原ニイテ、聞ニ猶東ニ聞ケレハ河原ラスキテ六ハラニ行付テハ  
大門ニ僧ノ吹テ立タリケレハ院宣ナリトテ 時モカハサス召具テ海原ニ  
笛ヲ召テ所覽スルニ 件ノ所笛ニテアリケレハ傳ハマウケタル子細ニタニモ  
尋キコシメサスシテ 僧ニ種ノ物共下給テ返セ、河折ノ吹テ 笛音ヲ  
キコシメシツケタルトナン時ノ人申ケル件院所衣ノ宮ヲハラハセ給ルニ行  
タルトモ 申一説ク

其後堀河院所時件ノ笛トヲアリトキコシメテ師時ハ召ケルトモ毎宴ヨシ  
被申ケリ 蟬丸或記ニク保延四年十月廿日夜半許土門内裏火炎上  
トキ燒久坐キサケ 大笛同燒リ件太笛并竹ノ横笛ノテノ穴ノ一ノ穴ニ  
ソサカレタリケル高名ノ物ナリ 拾送納言ニク 蟬丸燒テ後近代ハ笛ハ



小氷絶ヲ入ラレタルナツ算竹笛ナリ

讚岐並口琴清高名抜群名算竹笛ノ海人ノ夕キサシ胡竹ノ笛ノ有人  
巡濱ノ過海人塩ヲ焼餘燄ノ中ニシテ世竹ヲエテ以テ笛ヲ作ル其音濃美  
粗焼尾琴ヲ監暗ニニタリ

小蟬ハ算竹ノ笛ノ元ハ浄蔵貴所ノ笛

件ノ笛傳リテ小一条院ニハケルヲ傳ヒトシテニニハケリチサヤカナル笛ノ

蟬ニ筋アサクトシテ付タリキ松ニカヒヲラシテ吹カヨリハ下ハ鹿角ヲモテ

ツキタリケリ彼笛仁和寺ノ大蔵院一品ニハ所焼矢一筒焼一其時

武吉カ白笙時久カラキナ丸ニナカラ焼一件ノ小蟬ハ下総前司師李カ

白ラウワラモシニ入ルトテ頭ワレテコカレテフ仍リケル

江談ニズク小螺蚌ハ高名ノ横笛ナリ已下又笙ノキサケエノウセタルトキノフトシ

然ハ笙ノルキサテエラ横笛トカキアヤアレルニヤ

鳥相御賀日堀河院ノ御遊々時河笛生吹河ハ本結九ト甲河笛ヲ吹

河ケル是身作ニアラスト云々今度院河吹時件河笛ヲ尋子給ケルニイツレト

不知食其故ハ件本結九カハノ字トケタリケル所ヲ紫ノ糸ヲナカレタリケルハ本結

九ト河定アリケルハ其河笛ニカハラナカレニケレハ其注ナクテアキレテヤコニ

ケリサレハ其夕ニ高名ノ算竹内アソワサリケルトキコトナリ是九大位

頼長ノ由モカタリナリト云々

蛇逃ハ樂人清原助種ハ先祖ノ笛ナリ而九近府生助元助種府役ノ間懈怠アリ

九近府下蔵ニメシコメラレタリケルニ以テ下蔵ハ地ノスムナルモノヲソロシク思ラ

井タリケルホト夜半許ニナリテ大蛇イテキニケリ頭ハ師子ノ頭許ニテ眼ハカナ

ケリノフトシニ又ハカリナル舌ヲサシイタシテ大口ヲアキテステニケカクヨリテ我ヲ

ノニムトシケリ助元肝心モウセハテナカラ笛ヲスキイタシテワナク見

地樂ノ破吹ケリ大蛇キタリトナリテ頭ヲタカクモテアケテ笛ヲキクケニキ



アツシハナクキ、テカマリウセニケリ仍世笛ヲ地延 或蛇込ト 名ツク今世ニ  
尚傳之助種カ傳ヘタルラ公時ハニ譲リ奉トス

摩利支天下ニ大蛇ヲ降伏シ給フ 其ヨリ世曲始アルユニ今大  
蛇モ世曲ヲキニケサリニケルコソ

助支丸ハ倭竹丸或人云ク昔ニ興福寺維摩會ノトキ舞人拍光古高ホ  
例ニ但テ廳屋ニ着テ舗食其屋星霜多積テ垣壁半ハ穿ツ助枝ノ  
中ニ一竹アリ笛竹ニヨシ土中ニテ年序ヲ歴トイトモ其様未變立光高  
截テ笛トス果シテ優券ナリ累代相傳シテ 則房ノ世ニテ 在之今ハ  
傳人ナキ歟宛モ古文孝經ノ如シ

又云助支丸ハ拍家ニ傳クヲ拍家ノ笛ハ行高ノトキヨリ始レリ大社ノ  
是季カ算ニテアリシユニノコルトコロナリ吹傳ヘ年

又鳥羽院ヨリ春日竹ハ笛ノトコニメアリタリタリケルヲナラシニ下給トテ  
式部大輔俊重朝臣世曲笛何思物ハト被作下後重申云世笛以外不

中用物シ音以外ニ左イト申タリケレハ世人ワラヒケリト云ク  
重代丸ハ左大位ニ祇ノ笛ナリ 基通ノガ子也 或云累代相傳ノ物ナリ  
仍世人ニ祇重代丸トイウ

内宴丸ハ六条禪門蓮道ノ名笛也内宴ノ時允政吹クヲ仍乃名ト蓋擬  
馬内伎シ曲水丸

頭燒音世西管ハ中古同時ノ名物ナリ  
頭燒或人云燒麦ノ時誤テ首ヲ焦ス故頭燒ト号ス 又説世笛則海ノ夕キ

サシ一名ナリト云クハ笛胡竹笛ノ頭ノコレソハスコシ燒タルカテノ穴ノ下ノアヒスコシ  
延タル笛ナリ 或説鳥羽院ノ御物頭燒トナリ

又天神基貫カ頭燒トイフ笛アリ竹笛ガ子タルニヨリテ新大納言成親ハ  
ユツリタテニツリ年 又世笛ハ千穴ノ下ノ穴間スコシ延タル頭ノヤケヤウ彼院ノ世笛ニ  
ニタリ



席丸世笛ハ或記ニ云ク源頼俊笛ナリ 伏見修理大夫 俊徳  
教年カニエサル間頼俊彼大夫ノ許ハ糸向ニケ世間ノ物語ナトシテハカタニ毎ニハ  
彼笛返給ト申ニ物中ニ置失テ付ルナリトテ立ケルヲ拾貫ノ取テ川心テ只セ日  
返給ラムトイヒテ付ケレハ先術ニカサレタリケリ 箏竹ノ笛ナリ

腰丸ハ大和宗賢カ笛ナリ世笛或僧カ来テ賣之而ク夕穴ノ下ニ三分許  
聊折タル事アリ 仍菅佐冷人家難ヲ加テ 不買之式買路頭ニテ見之者  
聞ニ難ナレ 仍買平其後處ノ法會ニ吹ク宗賢聞ク甚以驚譎  
頗正坐 氣アリ 仍亦一建久ノ比梶井五ノ童舞生上御覧ノト  
閑院殿世笛ヲ石御覧アリテ御感シキリナリ 仍以後日進之乎 腰痛アルニ  
ヨリテ 腰丸ト号ス

寢暗丸世笛ハ式買年未ノ笛ナリ 而右洛門督親弟御サタトシテ當院  
進覧シ 神泉院御幸ノ時ナリ世笛 祿是少見ク 實ハ是大ナリ

又音多妙絶ナリ 頗驚ノ竹ノ中ニ音ニタリ 仍寢暗丸ト号ス

般若丸ハ堀河院ノ御物ニ而テ明暹 已講大般若出讀經ニ百テ付ケル  
主上四笛ヲアスス 調ニ随テ音ヲ合テ讀ケリ 上是ヲ恠思百テ六調ヲ替テ  
アスス 其ニ随テ又音多カハス 其時是ハ何物ツト御尋アリ 明暹申云ク出雲守  
明衛ノ息尾張得業 因憲ノ子 明暹ト申物アリ 然レハ定笛任ラント 彼御  
笛ヲ下給タリケル也 今般若丸是ナリ 彼ハ徒僧季以ノタメニ賣之ハ幡別笛  
幸清申 随テ返給々テ 當今御笛出尋ノ間 遠覧クニ

仙洞(獻ス  
下腰伏見修理大夫後徳家ノ一侍客アリ 自愛シタル笛ヲ侍タリ 今稱スル  
故ラシラス 大夫ユムトヲモフニ 容ユルサス 遂ニ勘責ニ及ノ時 客ノ曰ク 随分寶  
物 忽ニサラム事ヲナケク 願ハ一曲ヲ吹テ 直ニ獻之 大夫諾 赦之 客偽リナ

物 忽ニサラム事ヲナケク 願ハ一曲ヲ吹テ 直ニ獻之 大夫諾 赦之 客偽リナ



他笛ヲ持来テシハク曲ヲ吹ノ云ク此ニ為ニ還ノ決ヲウクノ所獲何益ヲトテ笛ヲ  
然ルニテケテサクタキセテ大夫カヲナクシテ心其後竊宗治政ニ進之世事  
成高カ天丸ノソセイニタリ如何  
腰方以ユ一未勘得

大凡豊府生時行貢重ノ笛ニ仍俗呼テ時行大丸イフ蔵人鍾ニ傳ク  
大穴世ノ人コレヲ長慶カ大凡トイフ孝道傳ク

高野丸世笛ハ三位中将維盛ハノ笛ナリ是ハ十松大尺取ニ或女房賣ク  
讚没高野元為百弟ヲモテ五シ而彼三位西海下向シ時女房ニ譲之  
彼女房佛事ノタメニ用途ニナサレトキ鵜眼三千貫ニトメラル今ハ八幡ノ  
幸清坊ニツタフ

荒序丸胡作ノ笛ナリ兼久二年九月十九日水無瀬殿ノ舞所覽ノトキ  
右馬督親兼世笛ヲモテ荒序ヲ吹シテ給フ同亦日進覽シ仍世名ヲ

付シテ給世笛ハ誠ニヨキ笛ナリ

太笛頭一作燒丸尚兼久二年二月三日水無瀬殿テ前右衛門督親兼當院進覽

世笛ハ宗賢手来ノ所持シ

無名刑ア少捕家基一笛ナリ性古名物ニ即堀河院ニ獻スを教感アリ  
但吹穴已割其多回透仍以友工式ア太夫俊重修理セラル紫檀ヲモテ加フ  
其後基政吹ク奏申ニ云ク上古ヲハナサル名器ニ但本音相交リ是頗ル  
瓊瑩ナリト申ニ亦ニ有教感ト云ク

日本紀ニク天武天皇十四年九月各判官一人史一人巡察國司郡司及百姓  
之消息是次日詔曰凡諸款男款女笛吹者即傳コ子孫令習款笛  
古人語ラ云ク叡山ノ寶倉ニ牙ノ笛一管アリ件笛急覺大師入唐シテ  
五臺山ニ登テ文珠ヲ採シタテニツラムトス然而文珠顯現シ給ハス只雲中ニ  
シテ藏音ヲ作音ビテラトシテクモノアリコレヲ見ニ件ノ牙ノ笛アリトイハリ



、兼和四年六月入唐嘉祥元年六月帰朝ノ時世笛ヲ傳(給フモノ)  
又東大寺ノ寶藏ニ一管アリコレイツレノ代ニワタレリトシラス

唐ノ玄宗皇帝ハ笛ノ仙ナリ月夜舩ニメサテ笛ヲ吹キ給侍ノ笛天下ニ  
逸物ナリ其聲キコト石ヲコトシ心ニ天下ノ笛ニ我ホトカクト笛吹モノアラシトテホ  
スニ入来テ世笛ヲ吹ムト申皇帝即ケコレヲ与(テ吹シ允ニ) 治帝ヨリハスクレ  
タリ世人申テ云ク世笛ハ淡竹ナリ息ヲセムルニヨハスト申皇帝セメテ吹(キ  
ヨレ) 作ラレ即ケコレヲセメケレハ粉ノコトクニウタケニケリ侍ノ笛吹タチマチニ  
ニエス是紋龍ノ靈ツ子シテ以事ヲクタストイ(リ) 子細唐ノ蒙求ニエタリ  
同帝月ノ夜笛ヲフカセ給其音龍鳴ニトナラス爰ニ一ノ方術ノモノアリ龍鳴ヲ  
封シ止帝ノ笛ノ聞ス龍鳥ト存テコレヲ封ス帝怒ニ年スクシテ笛ヲフク  
コトアタワス一説云クヲシニナルトイ(リ) 群臣ヲク(ナ) ケキニ朝ヲキニサワク  
時封ノモノ以事ヲ聞テヒソカニ其封ヲヤフル帝コレヲ聞テヲ、キハラタセ

給トイ(リ)

或記云ク唐ニ龍ヲ皆トリアツメテ鐘ニ入テ封シタリケルニ其時ノ帝王ノ笛ヲ  
フカセ給ケルヲキニテ猶龍ノナクハ封セシス龍ノアルチメリトテ又封シタリケレハ  
帝王笛ヲモエ(ク) 給ス物モエノタミワサリケレハ龍ノナクニハアラサリケリトテ  
封(ラ) 一タリケルト一ニラツ物ヲモ作ラレ笛ハフカセ給ケレコレ同シソセイノ事  
ナリサリナカラシレニヤ

樂書云ク梁朝ニ秋テ云ク候馬ハ龍ヲナクス物折楊柳ノ枝ヲ下馬テ吹ク  
横笛愁(欽) 路傍兒ヲ笛ハ滌ナリ霧雲夢之霜為ヲ法龍吟之韻ヲ  
玄宗皇帝玉笛ヲ持テ給(リ) 主外ハフカスモノ(ニ) 而(テ) 楊貴妃御寵ニコレ  
ルア(リ) 是ヲフキタリケル其咎ヲモキコトナレハ(ニ) 哀(ラ) イタサセ給(テ) ナリ(ト) 爰ニ  
楊貴妃ツノアヤナリラカ(リ) シテ(ニ) ツカろカ(ニ) ヲタキテ(テ) 帝ニ(タ) テ(ニ) ツレリ  
帝コレヲ御覽シテ大(ニ) ヲトロカセ給(テ) トカラム(ル) サレニケリ



漢家ニ王喬トイウ人滯ニクル秋ノ夜月ヲ詠シアカスニ仙童一人来テ笛ニメテハ  
一ノ鶴ヲ引テセラサリメイワカヒナクテスクルホトトシコロヘテ子ニテ王漢トイフ  
モノユメニ鳳ニノリテ来テイハク三年カ間仙ニツラナリテ遊色ヲ案トス  
然レモ昨日一紙綢糸ヲモテ奏スルニ笛ニ詞ヲ一ツスレテカタヘニイサスラヨリテ  
鶴ヲメサレテ鳳ニカウルコレカ代ノキス子孫ノハチナラスヤ鳳ノ鳥ノ主ナレトモ仙道ハ  
鶴ヲ案トスイイヘリ彼綢糸ヲホユヤトウケホヘタリトイエトモ我ハ凡夫スハ仙  
路ニホリ恰フ賢笛ヲ愚音ケカスヘカラストイウニトハラモチテラニユニトイウ  
コレヲキニテ智欲ヲモケス其後仙東ヲサシテサリタユメサメテ松ヲシルニ鳳  
毛一ツアリコレヨリ笛ノ名ヲ鳳笛トイウ是秘事ナリトイヘリ  
或云南陽王七威ニテ位ニツクエメニテ一ノ笛ヲエタリ一ノ笛ヲ公尊トナツク  
一ノ笛ヲ兩笛トイリサメテノチレハ現ニコレアリ南陽王一ノ笛ヲトテフケハ  
而シキリナリ又一ノ笛ヲフケハヒナハレテ早ニル

或云漢成姫ト云人ユメノ中ニ一ノ笛ヲエテサメテ後松ノ糸トリニアリ其笛ヨク  
陰陽ノコトツカテリト云コレモ南陽王ノコトニタリシカレトモコレラシルス  
又云白糸天トイヒシ人ハ琵琶引テリ尋陽江トイウトコロナカセタテウヤト  
ロスニシク人ナレニ目モカレスソヤシヲテモル春秋酒ヲトリテアノムヲコノメヲニトモス  
コト笛ニニタリコレヲモテ教盃ヲヒトリカタツケ給キ  
又云漢家向子期トイウ人アリキ隣人ノ笛ヲ吹テキニテヨシニラムスツ  
事人ニコトタリ也人ヲ

梁鷄栖テ遅ク唱テ笛向子期カ隣ニ吹漢月望ヲカタフキ  
カタシ礎楚屈原カ舎ニウラム  
文選ニ云ク隣人笛ヲ吹モノアリ智零亮ナリ  
又詩ニ云ク龍水中ニ吟再ニ馬李長カ笛ヲ聽鳳中天轉ル重テ  
王子晋カ笙ヲ遇



又詩ニ云ク馬融笛吹ハ龍耳ヲソクテ穆公鼓ヲ切馬畜心ヲナス  
又云孔子ハ笛ヲフキ給フ

穆天子傳ニハ穆王トキ天下連雨三月ヤテ早笛ヲフクニヲノワカ  
ヤミタイイヘリ陽王ノユメノ笛ニヤ

又云漢ノ高祖ノイクサトキ勢スクナクナリテアヤウカリケルニ張良陳  
平ト申ケルハカリ事カレコキ人々夜中ニ人ヲシタテ、項羽ノ士卒  
中一ツカハシケ笛楚詠ヲツクリテ吹レメケレハ項羽ノツハモノ百万家  
ミナクフトクク啼泣シテイクサノ陳ヲサリニケリ

古人ニク貞保親王管絃長シ衆藝人ナリ全ク省ヲナラフルモノナシ其中ニ  
笛ヲモテ本トス所作ノ横笛ノ譜未代人其心ヲエカクトイエリ御笛ノ師ハ  
夕部春近カ高祖父吉延トイヒケルモノナリ

世親王御笛ノ音ハ上キリナリ又成高トイフモノモ六キリナリウハキリトイハ

揚鼓拍子ヲシラヌフキヲラシクフキテ揚鼓ノ二拍子三拍子ヲ突カスレテ吹シルナリ

竹ノウハキリハ息多吹トコロナリ息スクナキハ笙ノトク揚鼓拍子ヲ吹ナリ

又堀河院ノ御息又ウハキリナリ入道大良辰後房コレヲキテ作ラレケル

或アハ多貴テ後廿余年ノ身始テ又上キリヲ聞トス

堀河院鳥羽院行幸アリテ御笛アリケリ友正丸付テツカニツリケリ白河院

キコレシテ下鷹ノ笛トモナクハサラアリテ仕モカナ友正ハ笛ヲ御笛ニシテ御笛ヲ

モ入ノミシタラムイカトワ作ラレケル

元政云堀河院ノ御笛音ト云息ト云人々シワサトモヲホハスミシクシ事ナリ

六孔ハ孔ヲトセメサセ御シハ孔下ヨリ激水ノ流カ如ク息ノ下ナ聞一御シナリ

禪定殿下ノ作ニク近身ノ上キハ堀河院御ナリ全ク此類ニ誠言錯及

トコロアラス笛ニ息吹入テ笛吹ハ堀河院御スニ次及ニナリ世外ハ全ク手ニ

サルナリト云ハ



西河院ノ笛ノ白院キコシメテ餘ニシタカニ御シキ科ナレトク

博雅三位管絃ノ仙ナリ其中ニ横笛全ク競フモノナレ皇帝國乱旋ヨク

己ヲ傳フ他人笛ニ鬼ヲウキヲトストイヘリ江淡説同シ

博雅卿ハ上古ニスル名管絃者ナリケリ生レ依ケルトキ天ニ音樂ノ夢キコケリ

ツノコ東山ニ聖心上人ト云今リケリ天フキクニ山效妙ノ音樂アリ笛ニ生ニ

箏琵琶各一鼓一キコケリ世間ノ事ニモニス不思儀ニメテタカリケル上人アマシ

シテ居室ヲイテ、カク又ニウキケルハ博雅ノ生レトコトイタリニケリ

先代テ糸ノ音ハトニリ又上人他人ニカタル事ナレ母ノ瑞相サメリケルトナム

彼野子息二人アリ一人ハ信義笛ノ上手アリ一人ハ信明琵琶ノ上手

ナリケリ信義ヲハ雙調君ト号シケル其故ハ武部ニ多時管絃者伶人ホリ年

シテ河端ニ遊マ給ケルニ明月ノ夜曉ニノソシテ河務ヲカキウケニ

雙調ノ子ヲ吹テスル船アリ其船ヤウクキタリチカワクヲキクマコトニ

神妙ナリケリ我祖ニ比類ナキ笛ナリ維人ナラムト人ヲアシウヲモヒカヘルニ船ハ

霧ニホメラレテシエスウケカヒノヲトハカリキコケテステニ船トユキケカウトキ

親王タレカト問タニケレハ信義トナリケリ宮情感ニタハス雙調ノ君

ナリケリトタニワセケリ其ヨリ天下ニイ雙調ヲ君ト号シケルトツ

或云ク雙調トイフ人ハ何ヲモヨク吹ケリ三条式アハ天玉寺ニイリタニウ

遠ニテ雙調ヲフキケルカニコトニメテタクキコケレハ雙調ノ君ト名付ケルトナリ

或云博雅ニ即信負笛也上手也或云博雅三島至老カ名ナリト云

或記云ク雅ニヨ博雅ナリノ墓コレヲシラス而監物頼吉ハシリテ時ニ奉而スト

イヘリ是笛ノ達者ニテニシクシユニニイレケルニヨリサレハツノシルシニヤナラ

ヒナキ上手ニテ侍リケリ

工監物頼吉ハヲホフカナキ樂ヲハ樂屋ニモ譜ニヒロケテ吹ケルニ道ノ長者ナレ



事ナレハミクルレクモ<sup>ハ</sup>ラス又難スル人モナシ錦譜トイウハ糸屋ニテヒラキミ  
ケル譜トカヤ

後三条院ハ管絃ニハ<sup>ハ</sup>サタナカリケリサリナカラ中<sup>ハ</sup>大納<sup>云</sup>宗後ノ<sup>ハ</sup>笛ヲ  
キコシメシテハ<sup>ハ</sup>世<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>笛ハタ、モノニアラス道ニ<sup>ハ</sup>イテ上ナキモノナリトテ<sup>ハ</sup>所  
顔色モ<sup>モ</sup>愛シ<sup>シ</sup>ミ<sup>シ</sup>クテ<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>感<sup>アリ</sup>ケリ

白河院モ<sup>モ</sup>世人ノ<sup>ハ</sup>争<sup>ツ</sup>キコシメシテハ<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>落<sup>テ</sup>涙<sup>ナリ</sup>テ<sup>ハ</sup>感<sup>セ</sup>サ<sup>マ</sup>給<sup>ケリ</sup>密大納<sup>云</sup>  
實<sup>ニ</sup>李<sup>ニ</sup>作<sup>ケ</sup>レタルハ<sup>ハ</sup>我<sup>ノ</sup>宗<sup>後</sup>カ<sup>ハ</sup>争<sup>ツ</sup>キ、テ<sup>ハ</sup>ホク<sup>ノ</sup>罪<sup>障</sup>ヲ<sup>ハ</sup>減<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>非<sup>ハ</sup>管<sup>絃</sup>  
者<sup>ハ</sup>嗚<sup>呼</sup>ノ<sup>ハ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ト<sup>ル</sup>キナリト<sup>ツ</sup>所<sup>ハ</sup>教<sup>感</sup>アリケルサテ<sup>ハ</sup>事<sup>ノ</sup>ホ<sup>カ</sup>ニ<sup>ハ</sup>所<sup>ハ</sup>執<sup>冬</sup>リ

所<sup>ハ</sup>憐<sup>然</sup>アリケリ  
知<sup>足</sup>院<sup>殿</sup> 忠<sup>一</sup>突<sup>一</sup> 彼<sup>郷</sup>ニ<sup>ハ</sup>イ<sup>ラ</sup>シ<sup>ケ</sup>レ<sup>ハ</sup>イ<sup>カ</sup>ナル<sup>奏</sup>事<sup>アリ</sup>ケ<sup>ト</sup>モ<sup>キ</sup>コ<sup>シ</sup>メ<sup>サ</sup>ス  
<sup>一作</sup>箏<sup>箏</sup> 所<sup>ハ</sup>箏<sup>ノ</sup>サ<sup>タ</sup>アリ<sup>テ</sup>毎<sup>度</sup>ニ<sup>ハ</sup>興<sup>ニ</sup>ノ<sup>ラ</sup>セ<sup>給</sup>ケリ

大<sup>納</sup>云<sup>宗</sup>後<sup>云</sup>ク<sup>ハ</sup>笛<sup>ハ</sup>全<sup>ク</sup>口<sup>弁</sup>ヲ<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>カ<sup>ラ</sup>ス<sup>サ</sup>レ<sup>テ</sup>ニ<sup>ハ</sup>吹<sup>キ</sup>ナ<sup>リ</sup>笛<sup>ハ</sup>内<sup>心</sup>ニ  
口<sup>弁</sup>ヲ<sup>ハ</sup>付<sup>ハ</sup>キ<sup>ナ</sup>リ<sup>シ</sup>カ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>面<sup>白</sup>ツ<sup>ハ</sup>俤<sup>ル</sup>ナ<sup>リ</sup>

或<sup>記</sup>云<sup>ク</sup>笛<sup>ハ</sup>イ<sup>キ</sup>サ<sup>シ</sup>ア<sup>ナ</sup>ウ<sup>ツ</sup>リ<sup>テ</sup>モ<sup>テ</sup>況<sup>ト</sup>ス<sup>其</sup>故<sup>ハ</sup>同<sup>詞</sup>ヲ<sup>ハ</sup>吹<sup>ト</sup>モ<sup>家</sup>ニ<sup>ニ</sup>  
カ<sup>ハ</sup>リ<sup>テ</sup>キ<sup>コ</sup>ユ<sup>子</sup>ニ<sup>ハ</sup>同<sup>子</sup>ヲ<sup>ハ</sup>シ<sup>ヘ</sup>タ<sup>レ</sup>ト<sup>モ</sup>ウ<sup>ケ</sup>トル<sup>人</sup>ノ<sup>身</sup>ト<sup>装</sup>束<sup>ト</sup>ノ<sup>フ</sup>ト<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>ク  
ノ<sup>モ</sup>ノ<sup>ヲ</sup>キ<sup>カ</sup>ウ<sup>レ</sup>ハ<sup>ハ</sup>カ<sup>ハ</sup>リ<sup>タル</sup>ヤ<sup>ウ</sup>ニ<sup>ハ</sup>ユ<sup>レ</sup>ト<sup>モ</sup>フ<sup>ト</sup>人<sup>ニ</sup>ハ<sup>ハ</sup>又<sup>シ</sup>ユ<sup>ス</sup>イ<sup>キ</sup>サ<sup>シ</sup>ハ<sup>ハ</sup>ヌ<sup>レ</sup>キ<sup>サ</sup>シ

ハ<sup>装</sup>束<sup>ナ</sup>リ<sup>然</sup>レ<sup>ハ</sup>其<sup>家</sup>ニ<sup>テ</sup>モ<sup>カ</sup>ラ<sup>ハ</sup>ヨ<sup>ク</sup>心<sup>ヲ</sup>モ<sup>ツ</sup>キ<sup>人</sup>モ<sup>ラ</sup>レ<sup>ウ</sup>キ<sup>テ</sup>リ  
樂<sup>所</sup>領<sup>ト</sup>監<sup>物</sup>源<sup>頼</sup>純<sup>ハ</sup>上<sup>古</sup>ハ<sup>キ</sup>サル<sup>教</sup>奇<sup>物</sup>ト<sup>モ</sup>玉<sup>年</sup>信<sup>近</sup>ニ<sup>ハ</sup>順<sup>テ</sup>横<sup>笛</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ラ</sup>ヒ  
ケ<sup>リ</sup>信<sup>近</sup>ハ<sup>南</sup>京<sup>ニ</sup>アリ<sup>リ</sup>頼<sup>純</sup>其<sup>道</sup>ノ<sup>遠</sup>ヲ<sup>ハ</sup>イ<sup>ト</sup>ワ<sup>ス</sup>或<sup>ハ</sup>日<sup>ヲ</sup>タ<sup>テ</sup>ム<sup>カ</sup>ヒ<sup>或</sup>ハ<sup>ニ</sup>

三日<sup>ヲ</sup>タ<sup>テ</sup>ユ<sup>ク</sup>信<sup>近</sup>或<sup>時</sup>ニ<sup>ハ</sup>ハ<sup>ラ</sup>シ<sup>ヘ</sup>或<sup>時</sup>ニ<sup>ハ</sup>バ<sup>ラ</sup>シ<sup>エ</sup>ス<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>遠<sup>路</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ム<sup>シ</sup>ク<sup>カ</sup>  
一<sup>ス</sup>ヲ<sup>リ</sup>モ<sup>ア</sup>リ<sup>ケ</sup>リ<sup>或</sup>時<sup>ハ</sup>信<sup>近</sup>花<sup>田</sup>ニ<sup>ハ</sup>アリ<sup>テ</sup>其<sup>虫</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ラ<sup>ヒ</sup>ケ<sup>レ</sup>ハ<sup>頼</sup>純<sup>モ</sup>シ<sup>タ</sup>カ<sup>イ</sup>テ  
朝<sup>ヨ</sup>リ<sup>タ</sup>イ<sup>タル</sup>ニ<sup>テ</sup>モ<sup>ロ</sup>ト<sup>モ</sup>虫<sup>ヲ</sup>ハ<sup>ラ</sup>ヒ<sup>ケ</sup>リ<sup>サ</sup>キ<sup>カ</sup>テ<sup>ム</sup>ト<sup>ス</sup>ル<sup>ト</sup>キ<sup>タ</sup>ニ<sup>ハ</sup>一<sup>曲</sup>ヲ

サ<sup>ツ</sup>ケ<sup>リ</sup>或<sup>時</sup>又<sup>ハ</sup>大<sup>豆</sup>ヲ<sup>ハ</sup>カ<sup>ルト</sup>フ<sup>ロ</sup>ニ<sup>ハ</sup>イ<sup>タ</sup>リ<sup>テ</sup>同<sup>ク</sup>フ<sup>レ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>カ<sup>リ</sup>ヲ<sup>ハ</sup>リ<sup>テ</sup>ノ<sup>キ</sup>録  
柄<sup>ヲ</sup>モ<sup>ケ</sup>テ<sup>ハ</sup>笛<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>ヨ<sup>シ</sup>エ<sup>ケ</sup>リ<sup>カ</sup>ク<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>其<sup>業</sup>ヲ<sup>ハ</sup>ナ<sup>ス</sup>ト<sup>イ</sup>ト<sup>モ</sup>ナ<sup>ラ</sup>下<sup>同</sup>ハ<sup>キ</sup>ス



貴賤ヲ論セス訪々シケリ天人樂スハ幡宿院ノ楯上ニテ大童子ニテ  
タルトソイヒワタヘタル頼徳ハ博雅ノ墓所ニテ時ニ参向シテ絲シケリ  
一トトニヨクスキタルナリ今世人其墓ヲシラス

安ア友ニハ童名黒丸ナリ祇園ノ師子ノ乱夢吹ケル笛ヲ息サレ音モトモニイ  
シレカリケレハ土御門大納言殿宗俊何物ソトテ青侍ヲモテニセサセ給ケレハ  
小童ノナニハカリナルカ吹ヨシ申ケレハイヨク興シ給テヨケレトモ思シテ各ラ  
サルアイタ師子ナカラ召入テ世童カタヒラニ神カツキシテツキケリ父ハ  
何物フト問ケレハ童ハトモカクモ申サリケリ家ヲ尋給ケレハ師子ニ具タルコ  
申ヤウ安頼ト申未ノ衆人ノ子ニテナムナリケルヲ乞取テカハカリノ物ニハ  
シタテ傳ルナリト申ケリ

一説ニ云ク彼大納言殿ノ夜ルフキテスキシラメシイレテ夕子サセ給ヘリケリ  
トイヘリ

或記ニテ是季清仕ラ笛ハ清任ハイキサリタリ是ハヨトリタリト申アヒ  
傳リケレハ白河院二人ヲメシアワセテキコシメスヘトキコケレハ牙ニウシト思ルニ  
葉ノ如ク兩人ヲメス清任ハ中門トキヨリス、ニイケ、依是季ハノキヨリ  
ウチニヒキ入テ坐スサテ一人ヲ調子仕ヘキヨシ作下サル清任黃鐘調ノ  
調子ヲ吹シメタリノキヨリ外ニ居テサカリタル音ノ調子ヲ吹是季ハ一越調ノ  
調子ヲワク中門内ヨリセメタル調ヲ吹アヒタ息ニニサリテキコヘケリ是則ハ  
ハセノマサレルユヘニ歌作モマサレルナルヘシ

鳥羽院ノ時永久年中ニ清基政時人基政ハ笛ハ上手ナリサレトモ  
息ハ心清ニサリタリト時宗ニテ各サタリケリ而シテ或人基政ハ息ノ色  
メテタクテコソ細クキコエトモ高ク遠クキユル事ハニサリタリト申サレケレハ  
二人ヲ召合ラシタリケリ先ニ清基テハ盤涉調ノ調子ヲ吹本外ニシタ  
次基政泰ヲスコシノキニ井ヨルヤウニウラ壹越調ノ上調子ヲ吹ヲリニヨリテ



ヲヒタシク聞ヘケリ宣旨ノ状ニ云ク  
タツカクトシモチテ 沂ノヒタヲサテト  
切上ルマウニコソキコシメセトナシ  
作ラレケルニハ息ノセサリタル事ハナケレトモ一  
盤涉調ニシタリケルトフロニ壹越調ノモノアラキヲサスカニシナヤカナレヤウ  
ノキテニサリタリケルナリモウノ事ハヨク心アルヘキナリコレモ是季コトキノ  
例ヲ思テフルニヘリケルナメリ

秘口傳ニ云ク 壹越調ノ入調ハ牛ノタケリケイタシキノシタニカシラヲ  
サレイラムトモテアクルテイニフクヘキナリト云ク

大方昔ハ横笛 柏笛 太笛ニテ各別道ナリケリ管絃伶人ノ兼スルコトカ  
タシ而ツ 横笛ヲ道トスル人 柏笛ヲフキ 柏笛ヲフク人 太笛ヲフク又カクノ  
コトシコレハシメヨリトモニナラフスシテヲノウカラスルユエナリタトハ馬車ヲ  
カケムコトクナリ 但昔ノ人ハテ事ヲヨクノヘキワメケリ 基政ハ横笛ハ是  
季カ家ヲフキ 柏笛ハ王手公延カ 説ヲツクシ只松ヤウ門遊ノサホウ

大笛ヲ堀河院ヨリト給ゲリ故ニ道ヲ通達ニテツケル

基政云ク太笛吹ノ横笛ハカナラス太笛ノ氣ヲ得ルナリ 遠兼カ横笛ツカワルハ  
太笛ノ手サレノイテモタルナリ 又柏笛吹ノ横笛モサキコトニ物師 信貞カ  
笛ハ柏笛ノ手サレノカキナリ

土御門ノ大納言宗俊ハ中比ノ上手ニ王監物頼吉カ介子ニ但シ面白ク  
フクヤウヲ好ミテ 具躰ニツカレケルナリ 眞實ニ上手ハ面白サヲハナルニナリ

或云ク 世人笛ニクイテ 具兼ヲ云ル人ナリ 大炊政ニテ 七寶ノ御塔供養  
ヲスナワレケルトキ 秋風系ヲモテ 行道ノ系トス 一廂ノ回三十及ニアタル人ハ  
試ニコレヲ吹ニ 未タ吹満ルホトアタワズ 只世人ヒトリ 此ヲフキニツトイヘリ  
禪定殿下ノ作ニ云ク 淨名院侍業 因憲系人ノ躰アルナリイカメシキ躰  
ヲフミテハタクトソフキニ息ヲモフキカウシタルハウニフキナスナリナメラカナル躰ハ

全クコノニサルナリ 崇ニ語ヲイハク 成高口中ニ 試ニ一越調 調子ヲ吹ケルニハ



キエスヲ屍ノ穴ニイテ居ニアケスカタフギテハ其見テハろくトソウキケル  
カイハ是巴好トコロハ心ニカケテイヒナリ友ニカ笛ヲ聞テイハケ  
全ク系人ノ留トヲホヘスイイヘリ

成高カ寧子鬼丸并子菊丸二人ヲ多テ野大貳 徳資通ノ将相具テ  
糸ッ子共ニ一紙調ノ調子ヲ吹シメ子成高云ク近來故アリ外ニ留ノ善  
悪シロシメタルハナシ世五人ノ留ノ勝者ニ下判セシメ給ヘキナリ

大貳云ク全ク勝者ナシ只同シホトナリトテ勝者ヲサタメス成高アナカチニ  
申間大貳殺及吹シメテ世ヲ圍テ云ク菊丸ニ留ヲ油堂ニタリケリト  
定メラレ子又成高心ノ中ニコレヲ奇テ只同シ事ナリ何事ニヨリテ菊丸

ヲ勝ト定メラルニカアラムトアヤシミナカラ去子又其後大貳他人ヲ殺  
テ云ク調子ハ吹ステ、身ウチツクロヒカイケタムヲ況トハイウナリ而ニ  
菊丸世説ヲソナヘシリタリトイヘリ成高此事ヲ傳ヘ聞テ我ハサ大貳ハ

ヲヨハサリケリトテ死ケルトイヘリ

世成高カ大丸トイフ留アリ本ハ行堂ノ邊取ノ御留ニテアリケルヲ成高タ  
マツリテ事ノヲリフシトニツキケリ 誠ニ目出キ物ニテアリケルハ伏見ノ修理大夫

後徳朝臣己ヲおしカリテ子石ニハムトアリケルヲ成高ツラサリケルハ父ハカリテ使ニ  
ヤリテウルキヨシヲイヒケリヲ事ヲイヒカケテ成高ヲメシテ留ユサセムトイヒ

ケル印意ナリトヨロコヒコメテアタヒハコウニヨルヘシトテタカヒニハムトシケルハ成高  
色ヲツクリテサル事申サストイウ仍世使ヲメシムカヘテタツ子ラルニ云シク申ヒキ

トイフホトニ修理大夫 後徳 大ニイカリテ人ヲアサムキスカスハフノアカ、ロカラス  
トテ雜色所クタレ木馬ニセムトセラシケル間成高云ク身ノイトニテテ故留

ヲモネテニイルヘシトイヒケルハ人ヲツケテ家ヘツカハスカヘリニヒリテ 腰ヨリ留ヲメキ  
イテ、イウヤウ世留ユヘコソカルメモシ得ナサケナキ留カナトテノキノ

モトニハシリヲリテ急ヲトリテナム灰ノトクニサクタキツ大夫留ツトラムト思フ



心ノフカサニコフサニクニカニヘラケレ今ハイウトモナケレハイマシムルニシヨハスシテ  
ヲヒハナタレヌ又後ニキケハフコトニハカラス留ッ大丸トテククタクキテ本ノ大丸ハサヒ  
ナタテウキアリキケレハ修理大夫ノヲコニテヤミニケリ

又云成高大丸知是院故ノ作ラシケル件ノ留ハ院ヨリ覆テ吹シ音ヒカミタル  
ナリ院ハ留モアスサ子トモ世留ヲ愛シテ常ニ所懐ニサレテシハニシクナリ  
ナ穴ヨリカシラ穴ニハユルニ吹ハホソク責テ吹ハ太キ音ニナリシク次穴ヨリシテ  
穴穴ヨリハ上ニ吹穴ノカタニヨリテ 檮ノ名シテシエケレハアヤシカラセ 拾テハキテ  
所ヲムシケレハアヲクテスコレ名シテナムアリケルコレヨリテヒカフエハアルニコソ  
ト院ハ作ラシケルナリ其名ニタルトコロハ内ノカタニモフワシホテスコレシトナシ  
六条入道蓮道云ク件留ヲ法成寺ノ新御堂供養ノ日成高カ吹ケルコハ  
他留ハキコソアリケレ世留ハヲロロケル人ハ吹ル事ハカタカリケルヲ宇治一切留  
侍従宰相參座テ吹シケルニ反カシナシクニヲカセ給一ト作ラシケレハ批季花

ニ佑ナラフカレケルニムコウ穴モナリテ寔ニメテタクキコケレハ宇治故モ世留ハメテタク  
フカシメ給テフシキノ事ナリトフ作ラシケル

皇帝并團礼旋傳習次并口傳

延道并子正近 雅樂丸正近并子是季件是季ハ普代ノ年人ナリ

大將曹是遠太府生是則ホカ舎并也而組又カ教訓ニヨリテ系人ナルコ

興福寺別當 公範 僧正 寺人新院僧ト申 雅樂元戸ア正近ヲモシテ彼及大曲ヲ

是季ニサツクヘキヨシ作合を正近答申云ク 斬ノ御恩アラハ早クサワクヘキヨシ

ヲ申ハケレハ寺ノ所討死吹石ヲ給ケレハ彼及大曲ヲサワケテケリ次右近將監

大神是季カ并子奏政及大曲ヲナラワレトスルトシ世昔ヲヤタレソヨシヲキハテ

八幡別當法下頼清 八幡人 常磐法下ト申乃並百石ヲ馬百疋ニシラセテ

是季カ南都ノ亭ヘラクラレケリ東大寺本寺檢所門ノケケケリ仍彼

及大曲ハサワケケリケル也



或記ス雅樂元カア政近五旬餘ニイタル子ナキヨリテ智大休是季ヲ

モテ子トシテ秘田ノ曲奇戸ア姓ノツカシムルニシカレトモイマタ師子ノ曲ヲハ

ツタヘヌサノ事ナリシカルホトニ政清イテキタリヤウク成人トルテ、秘事

秘田ヲ因クウコラハラヒテ相傳セシメテケリ寔ニ八幡別當頼清カ百人仲ニ秘人基政

戸部正清ヲモテ師道トシテ留曲ヲナラヒツタヘシム彼別當常ニ招請シテ

盃酌饗食應ヒキテモノヲユシニタエトナシゆる普通ノ事ヲ傳ヘテ

秘曲イタルムトスルトキ別當政清ヲ招請サキクノコトク貴院事年テ

後相語テ云ク樂ヲイテハ秘曲皇帝ヲ相傳セラルヘシ政清申テイハツ世

々系シタルヘシ但當時ノムク留未練ノ上若冠ノ間ヨイ未其期シタス遂ニ

子細アルハカラス相傳スヘシト多ク仍モ理シカルキニヨリテ其期ヲアヒタシムル

トフロニナラ事ヲ年サニヨセラ年月ヲラクル間別當存知ヤウ今ハ留トイヒ

年齢トイヒ其期ヲキラフヘキニアラス今ニ逢ルノテイハ秘曲ヲ相傳スヘカラスルヨシ

政清右知ノテウケムセナリシカレハ政清貧乏ノモノナリ師近ヲアラタメ是季ニ

属シテ秘曲ヲナライツタヘサスヘキヨシヒロウヲナシテ政清カシツケルホトノタツラ

ナシテ彼ヲ「」トスキハ定テヨヒイシテ秘曲ヲ傳ヘシムヘキ飲ノヨシ許定事ヲハリテ

馬百疋ニ並百石ヲ負セテ基政ヲ上馬ニセラ冠者原セイクアイクセサセテ

競馬ノニ地ヲルヤウニ行ヤラテ政清カ門ヲスルニ政清元ヨリお居ニ井テコレヲ

此ルトイヘトモイサカモフケルケレキナシヒトノミヤリテハ又モシヤラヌ多ニ内

席ノイウヤラ政事ヲスヤ別當貴液ヲ根テ秘曲相傳ノタメニ是季カ

モトニラクリツカハスト多ク子タナレキ心ハナキカノヨシ種々盃吹ノ事ハツイタスト

イトモカツテ返答ニアタハサル間合テシカレハコト成ハナリシカレトモ教友ノチ

政清活潑テ云ク女性ノ不徳を習アリ凡夫ノツタナキトテモ最貴ノ人

ナラ欲ラハリス何況ヤ我貧乏ノ身ナリイカテヤウケル心ナカラニヤシカリトイヘ

トモ返ラ乞スルナラヒアナカチニ千金ニフケルヘカラスト多クナカツクニ我ホ若冠子息



及二人清延清又清弟アリ其政ハ天下無雙ノ度量ノモノナリシカルニ  
秘曲ヲ相傳ヤシメムニライテハ彼ニアナツレテ我子共ハ人トナルヘカラサルユニスヘテ  
コラツタウカヲサルモシク、家ニ内房ト云フコトニ心肝ヲ銘ス女人ノ身争カシカ  
コトキノコトヲ存知セシム（キ女ハ曾ニ礼アリテ意ニ智ナシト云フ事ナリ  
只一日一季未ノ勤勞ヲウシナイテ他人ノ事トナラシイカシクヤシホユルハカリシ  
心若石ノイタリ極テ後悔ストテタケトケニナレヌル、サテテ監吹ノ心ツヒルカヘ  
シテ先ニ死ニテ後ニ復ニケリ仍其政ハ又度相違ノウ元ヨリモシクケウス、  
トツル（キム子内儀アルヨリテ是ヲカモトニワタリテ始テ亦子トナリテ秘曲  
皇帝已下ノ傳ヘナライ事ニ大神姓ヲツキテケリ  
又云吉多ハ玉手延近ヲ尊トスレハ間龍笛曲ヲワタフ又戸部姓ヲツタ  
スハ右舞人ナリ延近又智算延近ヲモテ子トシテ戸部姓并田曲ヲツタフ  
延近ハ石木ハ杖モ笛曲ヲツタフ又吉多カキヨリモ 笛曲ヲツタフ件

政近ハ兵庫元玉手ノ頼カ甥ニ妹ノ子ナリ

延近ハ吉多カト助則ハ延近カ子笛笙トモツクシカレトモ始テニ教ヲタリ  
玉手ノ先祖ナリ舞ヲトクヒルカヘリトワリテ折ニ盡クケリ

延頼ハ延近カ舎弟政近ハ延近カ尊即養子ナリ 皇帝ハ笛曲ヲモテ  
延近院ニイラセテタテニイタリ 延近子息ナキヨリテ氏ヲツクセルト云フ

政清号戸津判官白河堀河五院ノ北面ニ奉

堀河院ノ作スル未代室後ハ戸ノ政清ハ流ラモテ笛ノ正統ナスヘシ

同作スル於皇帝圖亂旋ニイテハ政清カ統ヲモテ後代ノ正統トスヘシ  
他人ノヤウニス 神妙ノ流ナリト云フ 仍知足院禪定及下世作ニヨテ

政清カ統ヲモテ 等譜ヲツクスヤ

清延 件通師 鳥羽院ハ面ニ奉同師師近

後白河院伶人佐負ヲ召テ守持ヲ蓋ニ横笛世評入テ世中ニ何ハ笛



上品物ト被作下ケルハ能見テ其内未里行トラセシナトハ付タトモイトモ  
モナ、河留ヲテ河エニサシラキテ是ハ丹行ニス丸右ヲ甲ハカラスト  
申ケルハ昆ニコハ木里行トテ下品物アリト被作ケル頭ヲフリテ争カ  
シテテハハキト申ケルハ後佐貞ヲ丹行トフケラレタルナリ

江談スノ元政ハ横笛上手ナリシカ童ニテハ幅ニアリケルヲイシキ天  
性ナルニヨリテハ幅ノ別當頼清系人ナリシ清ヲヨヒテ笛ヲシウヘキヨシ  
イヒケルハ子ニシウヘシトテキカサリケルハナラノ系人惟季ヲコヒテ世ワフワ  
笛ヲモヨトイヒケルハ我身子孫トケルハ心ニ入テナラハ、秘スヘカラストテシレヘ  
ケリ皇帝習ケルトキ頼清系百廿石ヲトウセケリ是則先例ニ  
惟季バシツカア延近ニナラヒケルトキ山階寺ノ一斎院ノ僧ニ真紀ト  
テセラレタリケル割人ニ清惟季トモニカノ近カ弟子ナレトモスコレヒテ  
タカヒニウケストフロアリケリシ清カイカケルハカシコキ弟子ヲロカナル子ニフ

サルカラス惟季カイヒケルハ清ウアレヌサキヲシウヘキ子アルヘシトカ子テシム  
ヤトワイヒケル近ハ樂所頼義カ弟子ナリ頼義ハサラテキモノナリ惟季  
ホトナクウセシレハ皇帝因乱旋ハ幅ノ童ツメハルナリ世元政カ子ニ基賢ト  
イウモノアリキニシヨノカラス、ホモハカクシクヲホヘサリケルニヤ兼安元年四月  
十八日二条虎ノ舞ウラムニ皇帝エフヤシト申テ俄ニ玉樹ニサシテ仍リシカハ  
系人トモニナリナリナリナリキツノ養子宗賢ハ又ヨキモノニテ父ハフカス曲  
トモヲシテフ、ツメヘ仍リ、ソノユヘハ以宗賢カ被父ニ冠師シ時、河堂ハ前、  
社假シケル間ナケキ申ヤウ元方サ養子トシテ留ヲツメヘハトモ全ク事細テヨ  
ハスシテ早世シテハスイカ、レハキト申ハ、河堂多近久ヲ河使トシテ基賢  
カニ男ノ僧明責トテヨク横笛ヲツメヘタルモノアリケルニ宗賢ヲ弟子トシテシ  
タツヘキヨシ作下サル、間ヤシナシ、甥タルウ河定ヲ奉テ流序己下ノ秘曲ヲハ  
皆宗賢ニサツケテケリ、明賢死云ノキサシ仁和寺舍利堂ニ被宗賢ヲ申ケルハ







又基政申云ク横笛吹穴事 中穴吹ハ六穴ノ為 後穴ハ四穴ノ事ニテ穴ナリト上ノ穴トモ  
為 後穴ノ又下穴ハ五穴ノ吹モ 調子吹モ不穴ナレトモ 件ノ四穴ナレハ穴ノ  
音ノ太ナルナリ又六穴吹ハ六穴ノ為 後穴ハ六穴ノ如車輪ト口ナル故ニ然レテ穴ト  
六穴トノ中ニ四ノ穴ノアルマシ 皆六ノ間ト音アルナリ又六穴吹ハ中穴ノカニタシテ為 後穴ハ  
五拍子ヲ吹トナリ筆下ニ云ク 本ニ穴ノ吹時タ穴ヲ後穴ニ云ヘキカレトモ四拍子  
吹ハ古キ上手トモ皆吹手ニ 但忠拍子ノ時ハフカテアリナシ  
又云 基政以外ニ今又アルモノ年々他人ノヨクモセ又云 基政世ニハトリナレテ衆  
ハカリヲカニシラカテテヲホユルト 時元トキワメテチカヨハカウツキアセテセシ衆他  
人クヒサククモナカリシニ 又時忠調子山モクハカリ吹ハ各ニ及清カキハシリタシ  
トモコナカニモナクニアレトモイカウチノヨクナリイテタルヤウニ吹イタルタリシコト  
時元基政コシラヘシタメシニシトリタリトモヲホハサリシカト云々  
三宮被作云ク 横笛吹清任ヨウアリ



